

令和元年度 ハナコフェア

6月17日（月）にハナコフェアを行いました。昭和6年の大雨で増水した松浦川で、溺れていた小学生を助けて、自らは力尽き、命を閉じられた、本校の前身である旧制唐津高等女学校に在籍されていた中尾ハナさんを顕彰し、本校では毎年「ハナコフェア」として命の大切さを学ぶ機会をつくっています。今回は東京都在住の児童文学作家である戸森しるこさんを講師として招き講話をしてもらいました。戸森さんは教育関係の企業で会社員としても働かれており、2015年に「ぼくたちのリアル」で講談社児童文学新人賞を受賞されています。「乳ガンの経験が登場人物への影響」「児童文学は少数派の声を聞くこと大切。」を話されました。

生徒の感想

・戸森さんの講演を聞いて、普段の生活で行っている、「食事」や「友達との会話」などは当たり前ではないと改めて感じました。1日1日の行動や会話などは本当に大切だと思いました。戸森さんが病気になったときの話をきいて、病気で今も苦しんだり、悩んだりしている人がたくさんいると考えると、私が今元気に生活していることは本当にすごく幸せなことなんだと思いました。

・私は深刻な病気にかかったりしたことが無く、特段自分の命を大切にしようとか、明日死ぬかもしれない恐怖にさらされたことはありません。私は、将来看護師を目指しているのですが、これから沢山の病気を知り、その怖さも知るのでと思いました。私はそういう怖さと病気と闘っている患者さんに寄り添ってあげられる様な看護師になりたいと思いました。

